

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

コロナ後の「ブラックスワン」備えは可能か

ウォール・ストリート・ジャーナル発 (2020年4月27日付)

1. 新型コロナウイルス感染症は、次の「ブラックスワン」(事前に予測できないが、発生すると極めて大きな影響を及ぼす事象)にどう備えるべきかという難問を企業や投資家、政策立案者に投げかけた。
2. 米国の航空会社は今年(4月)、連邦政府から250億ドル(約2兆7000億円)の支援を受けることで合意した。一方で航空会社はこの10年、稼いだフリーキャッシュフローを投資や蓄えに回すよりもむしろ、基本的に全て、株主に還元してきた。批判的な人々からは航空会社は破産申請に追い込まれるべきだったとの声が上がっている。この議論は要するに、企業が想定外の事象に対処できるように、政策立案者が強制すべき備えの水準というものはあるのか、という問題だ。
3. 経済学者のフランク・ナイトやジョン・メイナード・ケインズ、それに数学者で予測不可能な事象を指す「ブラックスワン」という言葉をつくったことで知られるナシーム・ニコラス・タレブ氏は皆、過去の確率に基づいてある程度計測できる「リスク」と「不確実性」の違いを強調している。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2020年5月16日号)

経営者のための危機管理

備えていただけでは十分ではない

畑村 洋太郎 (東京大学名誉教授)

1. 「失敗学」「危険学」を専門にしてきた私は、これまで日本で起きた数々の災害についても研究対象としてきました。その中で、とても参考になったものがあります。国土交通省の東北地方整備局がまとめた「東日本大震災の実体験に基づく災害初動期指揮心得」です。その冒頭にはこう書かれています。「備えていたことしか、役に立たなかった。備えていただけでは、十分ではなかった」。
2. 組織とはどういうものかを考えさせられます。組織の目的をみんなで共有し、いろいろなことを考え抜いておけば、何か起きたときに実行できる。もちろん、何から何まで準備をしようとする、際限がなくお金がかかるし、人も時間も必要になります。しかし、考えた上でやらなかったことと考えると違わなかったことは違うんです。

(参考:「日経ビジネス」:2020年5月25日号)

経営者のための経済学

今後起る日本経済の大きな変化(エコノミスト)

1. 人々が過密な空間を避ける状態が続くため、都市部の魅力があれ、金融機関の融資の担保である不動産の価格は下落。その結果、金融システム問題に発展するリスクが高まる。(河野龍太郎)
2. 景気の低迷が長期化することで、設備投資や雇用の削減により供給能力が縮小し、稼ぐ力が大きく後退。税収が落ち込み、社会保障制度も改正できない中、財政破綻が日本の最大のリスク。(小林真一郎)
3. リーマンショック後と同様に、新たな「失われた世代」(フリーター、ニート化を余儀なくされる若者層)の登場と、それに伴うイノベーションの停滞が起きる。財政依存が強まり、将来的な「日本売り」のリスクが高まる。(美和卓)
4. 倒産・失業の連鎖が止められず、経済の長期停滞を招き、潜在成長率が低下する。(武田洋子)

(参考:「週刊東洋経済」2020年5月23日号)

古典に学ぶ

徳川三百年の理由

(解説) 徳川家康の遺訓である「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くが如し、急ぐべからず、不自由を常と思へば不足なし、勝つ事ばかり知りてまくる事を知らざれば、害その身に至る」について考えて見ると、皆経学中に求めたものである。よく三百年の太平を致したゆえんのもの、けだし学問の活用、すなわち実際と理論とを調和して、密接ならしめたるに由ると思ふ。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)